

今週の話題:

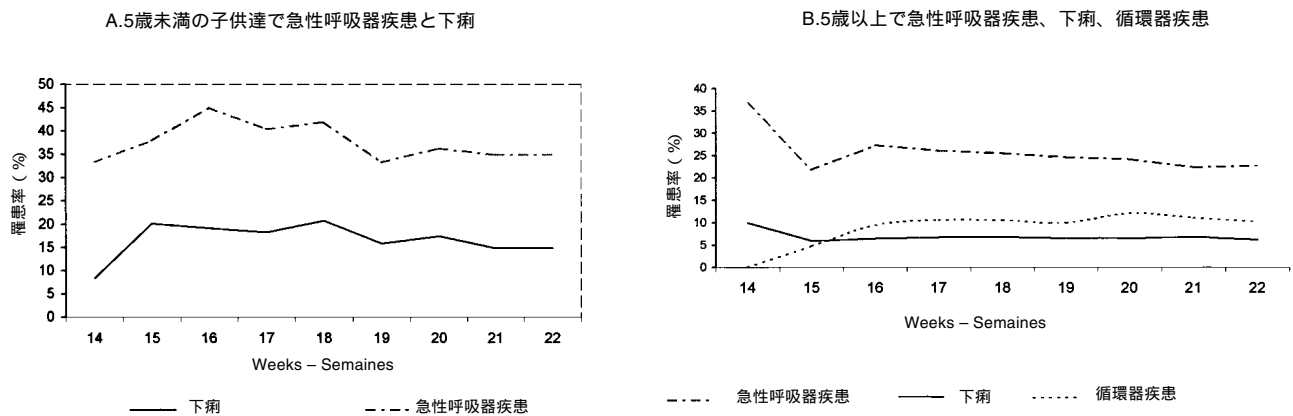
<表 (p.305-308): 急性弛緩性麻痺 (AFP) 監視とポリオ発生率、1998年 -1999年 >
4ページにわたる国別統計については、WEB参照。

<アルバニアにおけるコソボ難民の伝染病の監視、1999年 4月 -6月 >

1999年の3月から6月までに、42万2千人のコソボ難民がアルバニアに到着した。このうち5%はアルバニアの家庭に引き取られ、残りは難民キャンプや集合センターに住んでいる。伝染病監視システムは難民の間で発生するあらゆる流行を発見し、コントロールするために設立された。9週間の監視の結果は以下のようであった。

監視の終了までに、難民は合わせて37の地域に分かれていた。ティラナ市に22%、クカスに18%、シュコダルに9%と集中していて、他の33地域に残りの5%の難民がいたと考えられる。32地域から920報189706件が集計された。5歳未満の子供達の間で一番多かったのが、急性呼吸器感染症(37%)で、次いで、下痢(17%)、疥癬とシラミ(3.7%)であった。戦争による外傷や深刻な精神障害は、5歳未満の子供(両方合わせて0.3%)より、高齢者グループ(それぞれ1.3%と2.8%)が目立った。期間中に報告された死亡数は、5歳未満の子供で11例(6例がその他で、3例が急性呼吸器感染症)、5歳以上で23例(11例が心臓血管疾患、8例がその他、3例が急性呼吸器感染症)であった。しかし、大流行は見られなかった。

図 アルバニアにおけるコソボ難民の罹患率 (1999年 4月 16日 -6月 6日)



1999年4月16日から6月6日までに、アルバニアにおけるコソボ難民の間で最も流行した疾患の罹患率である。Aは5歳未満の子供達で急性呼吸器疾患と下痢。Bは5歳以上で急性呼吸器疾患、下痢、循環器疾患である。監視後1週間でどの疾患の罹患率も安定している。

流行ニュースの続報インフルエンザ

オーストラリア (1999年 9月 12日)

シドニーでのインフルエンザは今では地域レベルまで縮小されている。

デンマーク(1999年9月12日)²

監視システムは9月1日に再開された。先週報告されたインフルエンザ様疾患の発症頻度は、予測された頻度より低かった。

参照 ¹No. 36, 1999, p. 303, ²No. 16, 1999, p. 128.

流行ニュース

アメリカ合衆国のセントルイス脳炎(SLE)

SLEは蚊に媒介されるウィルス感染であるが、9月のはじめにニューヨークで報告された。11例が血清学的に確認され、うち3例が死亡した。80例が調査中であるが、その約10%は臨床的基準でSLEと考えられている。11例中、9例が58-87歳の高齢者で、2例が38歳と15歳であった。地方当局は人の発症に対する監視と、蚊の発生をコントロールする活動を続けている。

シエラ・レオーネのコレラ

9月1日から6日までに134例のコレラ発症と1例の死亡が報告された。8例の便検体を検査した結果、6検体がVibrio cholerae 01 小川型陽性であった。

ソマリアのコレラ

8月31日までに6,964例が報告された。ボサソ病院では毎日3、4例の水様下痢患者が記録され、8月1日までに190例がコレラと診断された。そのうち、84例が男性で、106例が女性である。最も被害を受けている年齢層は5歳以上(全体の60%)で、15例が死亡している(致死率8%)。8月5日に5検体が、菌の同定と抗生物質に対する感受性を調べるためにナイロビ(ケニア)に送られた。その1検体からVibrio cholerae 小川型が、単離された。患者の90%以上が同じ地域出身である。調査によると彼らは便所に隣接する井戸水をよく飲んでいて、

(西本香織、吉川徳茂、宇佐美眞)